千年の森便り No.163

2017.02. 24

ちば千年の森をつくる会

http://toyofusajima.html.xdomain.jp/

事務局長　伊藤道男

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

２月１９日（日）快晴　定例活動日、

参加会員は秋元、新井通子、伊藤、大原、久我夫妻、坂本、中田夫妻と子供たち、成沢、根本、真鍋、村野の１７名にゲスト参加の友塚さん。トビのカップルが楽しそうに舞う雲一つない青空の下、暖かい冬の陽射しを浴びながら、朝いちばん全員で相対照度調査、続いて各グループに分かれ、シイタケ植菌用ホダ木の玉切り、ホテイ岬の整備、ギャップ更新区の整備、植物観察、野鳥観察など楽しみ、子供たちは落葉集めてカブトムシ幼虫の棲み処つくりなどに精を出しました。

北斜面の湖岸にはスハマソウが咲き始め、植生保護柵落葉の陰にはシュンランが蕾を膨らませていました。（真鍋）

○野鳥記録

オシドリ５　ホシハジロ１５　キンクロハジロ１３　カワウ２　トビ６　コゲラ１+声　ハシボソガラス声　ハシブトガラス声　カケス１　ヤマガラ２+声+囀り　ヒヨドリ１+声　エナガ２+声　メジロ４＋声＋囀り　ツグミ１　以上　智貴君の観察情報と併せて　１４種

青い空にトビペアーの空中ショー

○トビの空中ショー

朝、島へ到着した時に２羽のトビが寄り添って飛んでいるのがみえましたので、昼食後にマダケ林の整備作業をパスして、トビの観察と撮影を試みました。

吊り橋の上で待っていると、やはり２羽が寄り添って飛び、時には急反転してじゃれあっているように見えました。

青空をバックにした空中ショータイムは何時までも続き見飽きませんでした。

恐らく繁殖行動の一部で、ペアーが互いの飛行術を見せ合って絆を確かめていたと思います。

尚、島内に２つある古巣は手入れの様子が無いので、今年は子育てに使わない様です。（坂本）

青い豊英湖にキンクロハジロ

○ギャップ更新地整備

３年目を迎えるギャップ更新地の一部は、パイオニア種であるアカメガシワやカラスザンショウの成長が著しく、大きいものは２，５m程度まで生育してかなり優勢になってきた。多様な種からなる森林に確実に誘導するため、アカメガシワ、カラスザンショウ、イヌザンショウの３種を約１００本伐採し、アセビも大きいものを選択的に伐採した。詳細な調査を継続している林床植物を傷めないためこの時期に実施したが、作業をしながらコナラやカエデ類の萌芽更新の様子なども確認した。（伊藤）

○光環境調査

午前中の最初に、コナラ伐採地を中心に相対照度調査を行いました。お天気は、林内に日が射しこむような測定には悪い条件でしたが、照度のバラツキが小さくなるように照度計に直射日光が当たらないようにして測定を行いました。測定時間は、10：15～10：50 です。人員配置は、橋上２人、広場周辺２人、岬のヒメコマツ植栽地２人、コナラ伐採地５人、記録１人、合わせて 12 人で、測定には、照度計８台、トランシーバー4 台を使用しました。測定箇所は、コナラ伐採地が 20 点（A-1～D-5）、千年広場中央、コナラ更新林の苗畑、コナラ更新林のヒメコマツ植栽地、岬のヒメコマツ植栽地、合わせて 24 地点です。相対照度は、橋の上の照度を 100%とし、これに対する各地点の照度の割合（%）を求めました。測定回数は、各地点 5 回とし、その平均値を各地点の相対照度としました。千年広場ほかの過去に伐採を行った場所の相対照度は、落葉期のためいずれも 50%以上と比較的高い結果でした。また、ギャップ更新地（コナラ伐採地）の相対照度は、最大が 88.9%、最小が 49.4%、平均が 65.0%でした。今後も、これらの測定地点の光環境の変化を、追跡していきたいと考えています。（成沢）

表１　コナラ伐採地の相対照度（%）（2017.2.19）

	1	2	3	4	5
A	63.7	58.9	88.9	77.0	58.9
B	55.6	58.6	86.0	68.9	61.1
C	49.4	60.6	75.8	65.3	55.8
D	59.0	69.7	67.1	61.7	57.7

表２　島内５地点の落葉期の相対照度の変化

測定個所	相対照度（%）						
	2010/2/14	2012/2/19	2013/2/17	2014/2/23	2015/2/15	2016/2/13	2017/2/19
	落葉期	落葉期	落葉期	落葉期	落葉期	落葉期	落葉期
千年広場中央	65.6	61.7	58.4	63.9	71.5	60.3	52.4
コナラ更新林の苗畑	74.7	58.9	61.1	56.7	67.6	63.6	52.1
コナラ更新林ヒメコマツ		86.5	75.3	77.3	76.6	73.5	65.4
岬ヒメコマツ		86.8	54.6	44.4	66.9	65.3	70.8
コナラ伐採地				71.9	82.2	73.1	65.0

コナラ伐採地は、2015年2月以降20地点の平均値

図1 コナラ伐採地の相対照度（2017.2.19）

図2　落葉木の相対照度の変化

○シイタケホダ木の玉切り作業

１月に伐採し葉枯らしをしたコナラを、椎茸のホダ木用に長さ９０ｃｍに玉切りしました。椎茸原木としては最適な太さ１０ｃｍ～２５ｃｍの物が７０本確保できました。３月の活動日に約２０００個の種駒を植菌する予定です。（根本）

○植物観察-小さな春を探して

スハマソウ

シュンラン

豊英島では冬景色の中にも沢山の発見がありました。急な谷間を降りてコセリバオウレンの花を探しに行きましたがどうしても発見できなかったのは悔しかったですが、スハマソウ可憐な花が観察できて小さな春を感じることができました。シュンランの蕾がいくつも膨らんでいるのにも感動しました。来月開花ですね。

クロモジの冬芽

カラスザンショウの葉痕

冬芽の観察も楽しかったです。特にカラスザンショウの冬芽は帽子をかぶった人の顔のようで面白かったです。活動中や昼食中も他の参加者の方々と植物や生き物の話が尽きずまた楽しい時間を過ごさせていただきました。

今回は家族６人で参加しました。子供達はすっかり成長しましたが、思い思いの方法で楽しんでいたようです。

（中田真也子）

右写真は落葉集めてカブトムシ幼虫の寝床造りに精を出す子供たち。

○ツチアケビの種子散布

夏に２株生き残って 38 個の実をつけ、保護金網を取り外されたツチアケビは、予定通り、全ての実を鳥か動物に食されました。38 個中２個は人間が調査のため持ち去りましたので、残る 36 個が 12 月から２月の間に食され、豊英島又は周辺に種子散布されました。（真鍋）

○ホテイ岬の整備とマダケ調査

ホテイ岬はシカの食害から守るためマダケの保護エリアやホテイチクの保護エリアがあり、全体の整備方向がなかなか見定まらなかったが、シカ食害でマダケがなくなる可能性は低いことが実感できたこともあり、湖面の見える森林として整備すべく、昨年から取り組んでいる。約一年が経過して、湖面に面した部分は非常にきれいになった。つり橋の見えるビューポイントも整備され、つり場の遠望を眺めるともなく眺める時間も増えてきた。

なお、2006 年から取り組んできたマダケ調査は昨年で中断したが、いまだに 2006 年。2007 年の竹が枯れずに残っている。ちょっと驚きでもある。

整備された湖面沿い

2006 年 NO7

2007 年 NO2

豊英島探検記

豊英島は里山カレッジで最初に訪れた森で、つり橋を渡って島に入ったときのワクワクとした気持ち、森の中を散策したときの手探りするような感じは忘れられません。手探り感というのは、一般には立ち入り出来ない場所に踏み込み、ちょとした探検でもするかのような感じで、対峙して森を見ていたのかもしれません。個々の木々のことも全く分からず、ピントをどこに合わせたらいいのか分からず、全体としてすごい…という印象しか持てませんでした。

そのあと何回かお邪魔して少しずつ動・植物のこと、活動のことを知り、何かしらの発見があって、今は、ぽつんぽつんと豊英島というジグソーパズルのピースを数個、置けたかなという感じです。それと共に森を感じる余裕も少し生まれ、森からもちょっとだけ受け入れてもらえたように勝手に思っています。前回は昨年５月のハイキングのときのでしたので久しぶりでしたが、森からも「お帰り」と言ってもらえた気がして嬉しく思いました。（佐倉市　友塚新樹さん）

お知らせ

○**3 月活動日**；３月 19 日（日）、９時３０分君津市清和自然休養村管理センター集合。ニホンジカ調査、ヒメコマツ生長調査、しいたけ植菌、植物・野鳥調査など。

○**2017 年度活動について；**来年度の活動についてご要望ありましたら、伊藤事務局長あてご意見ください。このメールへの返信又は伊藤事務局長宛て。　m.ito26@gmail.com

○**Face　Bookちば里山_People：** 県内の里山関係の団体、グループ、個人の活動情報が満載です。2月活動日にゲスト参加された友塚さんの運営です。下記にリンクしてご覧ください。ちば里山_Peopleリンク先：https://www.facebook.com/chibasato.people